第６学年　総合的な学習の時間　学習指導案

天理市立福住小中学校　　松林　紗世

１．単元名　　平和への道　　－今、世界の平和は－

２．単元の目標

・平和と命に関する課題に探究的に取り組むことを通して、平和について自分なりの考えをもち、それらを適切な方法でまとめることができる。（知識・技能）

・現在起こっている戦争や紛争について調べたことを基に自分なりに平和を実現する方法を考え、友だちや地域の人たちと平和への思いを交流することで実践しようとする意欲を高め、他者に伝えることができる。（思考・判断・表現）

・友だちや地域の人、世界の人々と平和に安心して暮らしたいという目的意識をもち、意欲的に課題解決の方法を探ったり、協働的な活動をしようとしたりする意欲を育む。（主体的に取り組む態度）

３．単元について

（１）教材観

戦後 76 年を迎えた 2021 年は“平和の祭典”と称されるオリンピックが東京で行われ、児童が“世界”を感じる大きな機会となった。また、世界中に広がったコロナウィルスの感染拡大によって、皮肉にも「世界はつながっている」ということを児童が意識し、各国のニュースを耳にしたり関心をもったりする機会も多くなった。

世間や世界の悲しいニュースや緊迫する世界情勢の中にある今だからこそ、未来を担う次世代の子どもたちが世界に目を向け、平和へのメッセージと具体的な行動に移していけるようにしたい。その動機付けとしてオリンピックの難民選手団の話題を取り上げる。難民選手団とはどのような選手たちなのかを知ることを通して、現在進行形で世界では紛争があり、かつての戦争で起こった惨事と同様のことが続いていることから現在のこととして戦争を捉え、問題意識を持って“平和”についての考えを深めたい。また、自分の身近な“今”を見つめ、“平和とは何か”“平和な世界にするには何が必要か”“平和のために何をしていくか”自分なりの考えをもち、友だちや地域の方と交流することで実践しようという意欲を高めたい。

（２）児童観

本学年の児童（男子６名、女子６名）は、1 学期に平和学習で、第二次世界大戦の戦時中の暮らしやそこに生きた人々の思いについて学んできた。学級の児童の親戚や地域の方々に直接話を聴いたことで、命や地域の自然や田畑が当時の人たちの手で“守られてきたもの”“つなげてきたもの”という実感や気づきを得ることができた。また、修学旅行で舞鶴引揚記念館にて現地学習をを通して、戦時下での過酷な状況と離れ離れになるつらさ、命が奪われる悲惨さを目の当たりにし、「平和な世の中にしていこう」という思いが高まった。

しかし、児童の意識として戦争は「過去の話」で、自分たちの生活には直接関わりのないことで、「自分たちに何ができるかわからない」というのが本音のところである。本学習を通して一見平和な日本で暮らしている自分たちの足元が危ういことに気付きながらも、平和を創造していくということに対していろんな可能性を感じてくれたら本課題を取り上げる意義は大きい。

（３）指導観

戦争や平和についての学習は過去の事実を学ぶというった印象になりがちである。地球上では現在もなお戦争が繰り返され、多くの難民が生み出されている。始めに難民をテーマに置くことで「今」と「過去」をつなぎながら平和について捉えなおしたい。しかし、難民問題は児童の普段の生活とはかけ離れているため、児童の関心や興味をつかみながら進めることが大切である。

また、自分たちが頭で考えるだけではなく、募金活動や支援活動など実際に行動してみることで、何かやればできるんだという一人ひとりの自信に結び付けていく。平和を学ぶとは、自分を知り、可能性を信じることから始まることも念頭に指導していく。

（４）ＥＳＤとの関連

・本学習で働かせるＥＳＤの視点（見方・考え方）

多様性・・・オリンピックをスポーツの祭典やメダルの争いとだけ見るのではなく、多様な国の文化や国民性、歴史的背景、政治的背景、人種、信条などの視点から見ること。

公平性・・・戦争は、誰かや何かの“自分たちさえよければ”“今さえよければ”という考えが大きくかかわっていることを知る。見過ごせば、恵まれた環境にある人のみが安心して暮らせる世界になってしまうこと。「みんなで幸せになるにはどうすればいいか、何が必要か」を考える。

連携性・・・国境を越えて、同じ地球でともに生きていくにはどうすればいいかを考えることが大切であること。また、家族、友だち、地域の中で「ともに生きる」とはどういうことかも考える。

・本学習で育てたいＥＳＤの資質・能力

〈多面的、総合的に考える力〉

自分たちが考える“平和”と難民の人たちを通して考える“平和”の共通点と相違点を考える。

〈コミュニケーションを行う力〉

難民についての資料をもとに気付いたことや支援、自分たちにできることを考え、意見を交わすことを通して自分の考えをつくりあげる。

〈進んで参加する態度〉

地球市民としての自分や自分たちの可能性を感じ、平和を創造するために実践しようとする態度。

・本学習で変容を促すＥＳＤの価値観

〈世代内の公正〉

地球市民として、自分たちだけでなく同じ時間を過ごすみんなが安心して暮らせる社会・世界づくりが大切である。

〈人権・文化を重視する〉

身近な人も、遠く離れた誰かも、安心して過ごせるように努めなくてはならない。

〈幸福感に敏感になる、幸福感を重視する〉

どの人もみな、自分らしく生きる権利があり、それぞれがもっているかけがえのない価値を尊重し合う社会や世界をつくっていかなくてはならない。

・達成が期待されるＳＤＧｓ

３　健康・福祉
４　教育
１０　不平等解消
１６　平和・公正
１７　グローバル・パートナーシップ

４．単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に取り組む態度
①　現在も紛争や争いにより苦しむ人々や失われる命があることを知り、平和な世界を目指して様々な人の努力や願いがあることを理解している。 ②　問題解決に向けて適切な方法で情報を集め、自分の考えや立場を明確にする中で必要な情報を取捨選択し、まとめている。	①　現在起きている紛争や争いについて調べたことを基に平和のために必要なことやできることは何か、自分なりの考えをもつことができる。 ②　平和を実現するために、必要な努力や工夫を自分なりに考え、適切に表現している。	①　現在起きている紛争や争いやその解決や支援について関心をもち、平和につながる行動を大切にし、自らアクションを起こそうとしている。 ②　身近な平和を見つめ直し、社会や世界の平和の実現するために、生かせることはないかを考え、主体的に活動しようとしている。

５．単元の指導計画（全１４時間+α）

	主な学習活動・時間（〇）	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
既習の学びの振り返り	０．自分たちで作った「平和」のイメージマップを見返し、ＳＤＧｓの目標と関連付ける。 ・「平和」な暮らしのためには、いろいろな要素（衣・食・住、人間関係、環境、健康、人権・・・）①	・　作ったイメージマップを見ながら、SDGｓの１７の目標と関連付け、「平和」なくらしのためには、いろいろな要素が関連していることに気付けるようにする。	・△ア②
知る・つかむ	１．難民選手団の写真・UNHCR の難民選手団の動画や資料などからから難民について知る。問いをもつ。① ・オリンピックには世界中の国が参加しているけど、自分の国の代表として参　加できない人もいるんだ。 ・どうしてそんなことになったのか。 ・自分の国からオリンピックに出させてあげることがどうしてできないのか。 ２．難民が母国から逃げる際に起こることや選択しなければならないことについて、ワークショップでシミュレーションをする。② ・難民は不安でいっぱいだっただろう。 ・無事難民キャンプにたどりついた人たち	・難民選手団の写真を提示し、写真からわかる情報を集めることで気づいたことやどこの国の選手団かを考える。（フォトランゲージ） ・自分の興味のあるスポーツや金メダルの数などへの興味から、参加国、世界へと視点を広げられるような問いかけをする。 ・グループに分かれて対話を重視して活動することで、多様な意見にふれ、多角的に思・判断できるような場面を設定する。 ・ふりかえりをシェアする時間を十分に取る。	△ア１ △イ１

	はほっとしただろうな。 ・難民キャンプではどんな生活が待っているのだろうか。 3.「カラフル！/ぼくの新しいくらし（スイス）」※ＮＨＫfor School 学習クリップを視聴し、感想を交流する。① ・母国を離れたくらしは言葉や文化の違いでとても大変そうだ。 ・将来のくらしに不安を感じているだろう。	・視聴したことをもとに感想を交流し、「難民」をキーワードに記録のイメージマップを作り、「平和」のイメージマップと比べ、難民の生活がいかに平和な日常を奪い取られてしまっているかを確認する。	△ア１ イ１
問いをもつ	4.「難民」への問いを出し、カテゴリーに分け、イメージマップを作る。① ・日本に難民はいるのか。 ・どこが難民が一番多いのか。 ・逃げた国で差別を受けていないのか。 ・難民はどれくらいお金を持っているのだろうか。 5.自分が探求したい問いを決め、仮説をたてる。①	・問いが出しやすいように、これまで学習したことや写真、資料、地図などで想起できるようにする。 ・仮説に対してなぜその考えに至ったかも明確にしておく。	△イ１ ウ１
調べる・まとめる	6．世界の「難民」の実情について、自分が探求したい問いに対する仮説を確かめるための方法を考える。① ・本や資料を探す。 ・専門家にインタビューする。 ・アンケートをとる。 7．探究する。③ 8．探究したことを自分なりの方法でまとめる。③（パワーポイント、紙芝居、新聞、劇・・・）	・インターネットは便利であるが、信憑性に不安を感じる点を押さえ、できるだけ第１次情報にたどり着けるよう支援する。 ・探究方法についてアイディアを出し合い交流する。 ・専門家に当たる際には、教員がサポートした上で、できる限り児童本人にアポイントメントなどを取る経験を重視する。 ・伝えたいことを明確にして表現方法を選ぶようにする。	△ア２ △ア２ イ１，２
ひろげる	9．探究したことについて発表・発信する。② １０．自分たちにできることを考え、実際に行動にうつす。+@ ・パネル展、募金活動、NGO の話を聴く、難民の人たちの話を聴く会を開く、支援運動に参加する、手紙を書く。	・発表についての質問・良かった点・アドバイスを交流することで、クリティカルシンキングの力をつける。 ・発表で終わりではなく、また新たな問いや探究につながるようにする。	△イ１，２ ウ１，２